

# 来週の『売り物』記事はこれ



2016年7月15日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

聴覚障害者が挑む日々 耳が聞こえなければ胸で聞け 17日(日)



両耳の聴力がほぼないと分かったのは登坂由美恵さん(42)＝東京都大田区＝が2歳の時。母親はあえて手話を使うことを禁じ、ひたすら相手の口を見て言葉を発するように教えました。それとは知らず、唇の動きを見る「読唇術」を習得した登坂さんは7歳の時には相手の言葉が分かり、会話もできるようになっていました。しかし、学校ではいじめに遭い続けます。「海は私を差別なく受け入れてくれる」。そんな思いから、18歳で出合ったボディボードのとりことなり、やがてプロテストに合格して世界ランキング13位まで上りました。今は「まさか継ぐとは思わなかった」家業のそば屋の切り盛りに懸命です。「耳が聞こえないって損ばかりじゃない。悔しかったり悲しかったりしても、その先にきっと宝物がある」。登坂さんの歩みを追いました。



日曜朝は『S』で始まる――。ストーリーにご期待下さい。

伝説の歌に隠された秘話とは…

## 永六輔さんと「上を向いて歩こう」

夕刊特集ワイド 19日(火)



放送作家としてテレビの草創期を支え、ラジオなどでも活躍した永六輔さん＝写真＝が亡くなりました(享年83)。平和の大切さを訴え、今の憲法を高く評価していた永さん。奇しくも改憲勢力が議会の3分の2に達した参院選のさなかに世を去りました。作詞した「上を向いて歩こう」は「1960年安保の挫折を反映している」という説がありますが、真相はどうか――。ゆかりの人々がとっておきの「秘話」を語ります。

がん大国白書第2部「検証 基本法10年」がスタート 20日(水)朝刊

日本のがん医療の最新事情に迫る連載「がん大国白書」の第2部では、2006年の成立から10年たった「がん対策基本法」の理念が、どこまで実現しているかを検証します。基本法は、全国どこでも同じレベルの医療を受けられるようにする「均てん化」や、体や心のつらさをやわらげる「緩和ケアの充実」など、がん医療体制の向上を目指しました。しかし、取材の結果、地方を中心に居住地周辺でがん医療を完結することが難しかったり、がんや治療による痛みで苦しむ患者がいたりすることが分かってきました。患者や医療者の声を元に、次の10年に向けて解決が必要な課題を示します。



## 古本の処分方法

くらしナビA面 20日(水)



読み終わった本の処分方法として「寄付」という選択肢が浮上しています。愛着のある本や、まだまだきれいな本。ただ同然で古書店に売るより、無償でもいいから必要としている人に譲りたいと考える人は少なくありません。思いのこもった本は状態も良いもの。本を愛する人々の気持ちに寄り添い、受け皿になろうと動き始めたNPO団体や企業を取材しました。

## 介護職の人材定着には

くらしナビA面 22日(金)

介護業界は深刻な人材不足にあります。厚生労働省によると、年間24万人が加わる一方、22万人以上が離職しています。高齢化が進む中、このままでは2025年には37万人が不足するとみられています。若手の離職率が高いのが特徴で、賃金や労働時間などの待遇改善が求められますが、仕事の魅力を高めることも大切です。人材定着への課題を探りました。



## 女の気持ちをたずねて おんなのしんぶん 18日(月)



読者投稿欄「女の気持ち」の掲載者を記者が訪ねる人気コーナー。今回は、東京都葛飾区の62歳女性宅を訪問します。夫が定年後、いつの頃からか朝食を作ってくれるようになり、幼稚園に勤める娘の弁当も週に2回。昨年12月、娘が結婚したため弁当作りは終わったそうです。撮りためた弁当の写真は445枚。手作り弁当に込められた家族の思いを取材しました。

## 都知事選告示 2代続けてボロを出し…… ああ、東京よ！

オピニオン面 [論点] 22日(金)

2代続けて「政治とカネ」の問題で辞職に追い込まれた東京都知事。権威は地に落ち、公示された都知事選も政策論争よりも、人気取り合戦の様相を呈しています。世界有数の大都市として、4年後には五輪・パラリンピックの開催が迫る東京。好むと好まざるとにはかかわらず、この街に日本の富、人口が集中します。東京人、上京者、地方の目で「東京」を論じます。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。